

京都芸術劇場

Newsletter
shunjuza
studio21

vol.38
2017.8

ニ ュ ー ス レ タ ー



特集

YUKIO SUZUKI Projects

『堆積 - Accumulations -』

ホワイエ

8～12月公演スケジュール

— 2P-5P

— 6P-7P

— 8P-11P

コロッケ&京フィル

アメージングコンサート in 春秋座

— T・2P-T・5P



初演：『微分の堆積』シアタートラム（2016） Photo: bozzo

YUKIO SUZUKI Projects『堆積－Accumulations－』

テキスト引用：スベトラーナ・アレクシエービッチ著『チェルノブイリの祈り—未来の物語』（松本妙子訳／岩波現代文庫）

2017年11月25日（土）、26日（日）15:00

会場：春秋座 特設客席

振付・演出・出演：鈴木ユキオ

出演：安次嶺菜緒 堀井妙子 赤木はるか 竹内英明

【ポスト・パフォーマンス・トーク】11月25日（土）の回

鈴木ユキオ ゲスト：佐々木敦（批評家）

主催：京都造形芸術大学 舞台芸術研究センター

平成29年度 文化庁劇場・音楽堂等活性化事業

作品制作協力：世田谷パブリックシアター

協力：穂の国とよはし芸術劇場 PLAT（豊橋市）

●公演情報の詳細はスケジュール一覧（P.10）をご覧ください。

1997年、土方巽による稽古場兼劇場「アスベスト館」にて舞踏を始め、2000年より自身の創作活動を行っている鈴木ユキオさん。「トヨタコレオグラフィーアワード2008次代を担う振付家賞」を受賞、「パリ市立劇場 Danse Elargie 2012」ファイナリストに選出されるなど国内外で高い評価を受けています。

その鈴木さんが、2016年に東京で初演した『微分の堆積』を完全リメイクし、『堆積－Accumulations－』とあらたにタイトルを替えた作品を春秋座特設舞台にて上演します。作品がうまれた経緯から現在の作品づくりについて、お話を伺いました。

聞き手：川原美保（京都造形芸術大学舞台芸術研究センター制作）

スベトラーナ・アレクシエービッチ（2015年ノーベル文学賞受賞作家）の『チェルノブイリの祈り——未来の物語』をテキストに、男女5名のダンサーが作り出す、静謐でゆがみ続ける空間。人間の無邪気さと愚かさ、そして命のたくましさと尊さが、浮かび上がる。

—— 今回の作品の題材である『チェルノブイリの祈り——未来の物語』と出会った経緯と、このテキストを作品にしたいと思った理由をお話いただけますでしょうか。

鈴木 元々、この本を知っていたわけではなく、ノーベル文学賞を取ったということで話題になっていたことから、タイトルだけは知っていたんです。

僕が、ちょうど ACC (Asian Cultural Council) のサポートで2015年の9月からNYに6ヶ月滞在する機会があって、その時に読んだんです。向こうでは観劇や自分のWSなども開いていましたが、時間も結構あったので、その時に気になっていた本を手にとったのが、きっかけです。

同時に ACC の事務所では時々、プレゼンがあるんですね。「今日、プレゼンをやるから来ませんか」と声がかかるんです。それで ACC のサポートを受けた方とか色々な方が来るんです。僕も、そのプレゼンに、ちょくちょく行っていたんです。その時にエイコ&コマのエイコさんのプレゼンを観たのですが、それは、エイコさんが福島で踊っているところを撮影したものだったんです。それを観た時、自分が日本に住んでいたら、福島の人気持ちを考えちゃって、こういうことをやる気持ちにならないだろうなと思ったんです。もちろん日本のアーティスト

の方の中には、そういうところをきちっと出していられる方もいますけれど、僕はちょっと躊躇するタイプだったんです。

でも NY にしばらく住んでみると、向こうでは事件や出来事に対してすぐに反応するアーティストが多いですね。それを自分の表現として発表したり、表現はしなくても声を上げる人が多い。その雰囲気の中にいたら、なんとなく今、このテキストにトライしてみたいという気持ちになったんです。そういう気持ちになったのは、NY にいたのが大きかったのかなと思います。

同時にこのテキストはチェルノブイリ事故がテーマですが、直接的に事故の話をしているのではなくて、極限に陥った時の人間の姿のようなものを現しているという気がしたんです。極限状態の中で、愛であったり、人間の汚い部分とか全てが出てくる。そういう状況は戦争も同じかもしれないですね。そのような状況で人間は、どう暮らしていくのか。どういう風にリアクションを起こすのかというのは万国共通の問題だと思います。ですから事故そのものの話というより、人間性に惹かれて作品化しようと思いました。

—— 私もこのテキストを読んだのですが、非常にショッキングでした。実際にそこで何が起って、そこに居た人がどうなったかということを知ってショックが大きかったです

が、初演の映像を観た時、鈴木さんがおっしゃるように、そこに居る人間の愛とか生命の強さを非常に感じました。テキストの衝撃もありながら、舞台上のダンサー一人ひとりの生命の輝きというものが強く感じられました。

初演の時のダンサーは男性と女性3人3人でしたよね。

鈴木 そうですね。僕を入れると男性3人、女性3人。

— 京都では女性3人と男性2人になるそうですが、鈴木さんがソロを踊るのではなく、複数のダンサー



による作品にしたのは、どうしてですか？

鈴木 この作品を作る時の最初のイメージは、日常の淡々とした時間を紡ぎたいと思ったんです。原発事故が戦争と違うのは、起きていることが見えないから状況が分からない。事故のことを一切、知らされていないので、日常生活を淡々と過ごしているということ。それを表わすにはどうしたらいいかなと思った時、淡々とゲームをやるのがいいなと浮かんできました。6人のダンサーが身体を使ってゲームをしている。それは、ほのぼのとしている日常です。ゲームは人のまねをしていくシミュルなものなので、キャラクター的に特徴のあるダンサーに出てもらって、6人が遊んでいるようなところからうまく作品に展開できないかなと思いました。

—— 淡々と何かが積み重なっていくというのが、今回のタイトルに繋がっていくんでしょうか。

鈴木 そうですね。堆積していくというのは、放射能もそうですし、人が死んで土に返っていくというのもそうですね。いろいろなものが子供や子孫にバトンタッチされていく。それは人の愛かもしれないし、生活の知恵かもしれない。そういう色々なものや、人と人とのコミュニケーションが繋がって、積み重なっていく。それは直接的な形でないかもし



初演：『微分の堆積』シアタートラム（2016） Photo: bozzo

れないけれど、なんとなく怖さもあり、優しさもあるように見えてくる。そんな作品にしたいなと思っています。

—— 東京での初演から1年半ほど開けての再演ですが、どういったところが変わってきそうですか？

鈴木 そうですね。実際にダンサーの人数が1人、少なくなっているのもありますし、僕がダンスを見ながらライブで朗読というかナレーション、言葉を発することを中心にしながら同時に踊るということもありますね。それから初演とダンサーが変わることで、できることが違ってきます。せっかく再演の機会をいただいているので、今回のダンサーで何ができるかをチャレンジしたいと思います。

僕にとって、身体をフォーカスするということは、とても重要なんです。ダンスで何ができるのか、身体で何ができるのかですね。ですからテキストを使うことで、お芝居になるのではなく、テキストを使うけれどダンスでできることを探して、追及したいなと思います。

—— 身体でできることを追求するというのは、具体的には？

鈴木 僕が舞踏からスタートしているというのもあるかもしれませんが、自分にとって身体の見せ方はこうありたいというのが、すごくクリアにあるんです。それは何かと言うのは難しいのですが、そのラインで、いわゆる「振り付けをしっかり踊る」というのではなく、もう一個、身体そのものを物語るようなことができないかなと、いつも思っています。そこが僕のダンスの強さというのかな。

—— 今回、テキストがあって、ダンス、身体があるのですが、その関係性というのはいかがですか？ 初演ではテキストと身体は決してリンクしているわけではないように見えたのですが。

鈴木 そうですね。初演の時もそうだったのですが、実は関係しているように見せないことに、すごく努力



稽古風景

をしているんです。でも、自分の中では確実に両者は関係しているんですね。言葉に対して動きを嵌めています。でも、ちょっと曖昧すぎ、ぼやかしすぎちゃったかなとも思っています。もう少し言葉と身体をクリアに出さなくてはいけないかなと思うところもあります。

でもやっぱり、関係ないけれど関係あるように見えてくるという、曖昧なラインの良さを求めているのかもしれないですね。直接すぎないけれど、見えてくるようなことが起きたらいいなと思っているんです。

—— この作品は鈴木さんが全て振り付けをされているんですか？ それとも、ある部分はダンサーに任せていますか？

鈴木 ゲーム性のある動きとか、実際にゲームをする場面は、みんなでゲームをしながら作りましたが、大まかな部分は僕が振り付けるようにしています。でも、ダンサーからインスパイアを受ける部分がすごくありますね。僕が「こうして」って言ったことに対して、ふとした動きを出してくれたりすると、「あ、じゃあその感じで」っていうふうに、お互いがインスパイアして作っている部分が多いですね。

—— それは今回のダンサーが初演時と変わっているから。

鈴木 そうですね。初演はダンサーの見た目やキャラクターが全員違うという面白さを出したいと思って選んだのですが、今回は、身体を使って踊れる方ばかりなので違いますね。例えば、前は女性だけで作っていたシーンも今回は男性と入れ替えて発展させたり。ダンサーの素質でアイデアがひらめくということも結構ありますね。

—— 東日本大震災が2011年にあって福島第一原発事故が起こり、それから4年後にNYでこのテキストに出会うわけですね。作品を作る

うと思った時、そして初演から時間が経って心境など変わったことは、ありますか？

鈴木 うーん、そうですね。

—— 欲が出てきたこととか（笑）。

鈴木 あ、そうですね（笑）。欲が出ることは良くないですよ（笑）。でも初演は2本立てだったので、一本は身体を観せ、この作品は、そうじゃないやり方で作ろうと思ったん

です。いわゆるガシガシ身体を見せるのではなく、フラットな身体を見せてバランスを取ろうと思ったんです。でも、今回は1本なので、やはり身体で観せたいな、観せなきゃないという思いがあります。今、この作品で、身体にフォーカスする時間帯を作りたいなと思っているところです。

—— どのような作品に仕上がるか、今から、とても楽しみです。

【関連企画】

鈴木ユキオ

（ダンサー・振付家）

×

筒井 潤

（劇作家・演出家・俳優）

トーク

新作『堆積』で、身体の生存への意志を結実しようとする鈴木ユキオと、『ソコナイ図』で死そのものとダイレクトに向かいあう作品を提示した筒井潤がはじめて京都と東京で対話を行います。対極から出発するようなその在り方を互いがどのように考え、言葉を交換するのか密度の濃い対話をご期待ください。（参加無料／要事前申込み）

京都（KYOTO EXPERIMENT 2017 関連イベント）…

10月21日（土）13:00～

ロームシアター京都 会議室1

お問合せ：tel.075-791-8240

（京都芸術劇場チケットセンター／平日10-17時）

東京…

11月1日（水）19:00～

世田谷文化生活情報センター
ワークショップルーム

お問合せ：tel.03-5432-1526

（世田谷パブリックシアター）



『waltz』 photo: Kazuyuki Matsumoto

鈴木ユキオ

「YUKIO SUZUKI Projects」代表
振付家・ダンサー

世界40都市を超える地域で活動を展開し、しなやかで繊細に、且つ空間からはみだすような強靱な身体・ダンスは、多くの観客を魅了している。また、室伏鴻・中村恩恵の作品出演やMV出演、ミュージシャンとの共同制作やワークショップなど、活動は多岐に渡る。'08年にトヨタコレオグラフィーアワードで「次代を担う振付家賞（グランプリ）」を受賞。'12年フランス・パリ市立劇場「Danse Elargie」では10組のファイナリストに選ばれた。

公式サイト：www.suzu3.com

ハイナー・ゲッベルスって、あの？

1990年代の始め、大学生のころ、The Man in the ElevatorというCDを買った。ジャズのようなロックのような、ジャンルのよくわからないアルバムで、即興的な跳ねた演奏に英語のシャウト、ドイツ語の朗読のようなものまで入っていた。当時、アート・リンゼイというミュージシャンの弾くギターが好きで好きでたまらなくて、彼がわずかでも関わっているアルバムがあれば、片端から聴いていた。チューニングしていない彼のエレキギターは、金属製の動物の身悶えのようだったり、あるいは謎の腹の虫のようだったり、リズムからもコードからも自由で、他のどんなギタリストとも似ていない音がした。《エレベーターの男》と題されたCDも、彼が参加しているというだけで手に入れた。このアルバムを作ったアーティストが、ハイナー・ゲッベルスという名前だった。

アート・リンゼイの他にも、フレッド・フリスやホルガー・ヒラー、ドン・チェリー（ネナ・チェリーのオ

継父さんという認識だった）といったミュージシャン、それにハイナー・ミュラーという作家も参加していたが、このもう一人のハイナーさんが、ドイツの現代演劇の大変なビッグネームだと知ったのは、ずっと後のことだ。当時は、やはり好きで聴いていたアインシュテュルツェンデ・ノイパウテン（ドイツのノイズ系オルタナロックバンド）とも一緒に何かやっているらしい作家、くらいの理解しかなかった。ドイツの音楽は、文学や哲学や演劇とやたらに距離が近くて不思議な世界だなと思っていた。

そんな風にしてCDを持っていたが、ゲッベルス自身が何者なのか、よくわからないまま遠ざかってしまっていた。いまあらためて確認してみると、あのアルバムはハイナー・ミュラーのテキストに基づく音楽劇で、87年の初演後、上演ツアーもしていたらしい。ゲッベルスという人が、ジャンル・出自のあれほど混淆した《舞台》作品を、その後も仕掛けつづけてきた作り手だったなん

て、恥ずかしながらいまさら知って驚いている。



長島 確

ドラマトウルク

日本におけるドラマトウルクの草分けとして、さまざまな演出家・振付家の作品に参加。近年は演劇の発想やノウハウを劇場外へ持ち出すことに興味をもち、アートプロジェクトにも積極的に関わる。ナカフラのメンバー。最近の参加作品に『DOUBLE TOMORROW』（ファビアン・ブリオヴィル×演劇集団円）ほか。

※ P.9「Black on White」も併せてご覧下さい。

CLIP

舞台芸術研究センター周辺で起こる、ホットな話題をお伝えします。

茂山良暢さん茂山忠三郎を襲名

京都造形芸術大学 非常勤講師で公開連続講座「日本芸能史」では実演を交えての講義も行っている能楽師大蔵流狂言方の茂山良暢さんが8月、江戸時代から続く同家の当主名を五世茂山忠三郎として襲名します。茂山良暢さんは茂山忠三郎家 四世忠三郎の長男。京都造形芸術大学 映像・舞台芸術学科の卒業生でもあります。

杉原邦生さん歌舞伎の構成を担当

KUNIO 主宰で京都造形芸術大学 映像・舞台芸術学科の卒業生でもある杉原邦生さんが昨年に引き続き、東京・歌舞伎座「八月納涼歌舞伎」第二部の『東海道中膝栗毛 歌舞伎座捕物帖』の構成を担当いたします。京都芸術劇場春秋座の芸術監督でもある市川猿之助さんと市川染五郎さんによる弥次喜多をお楽しみください。

「オペラ」をつくる

今、オペラを制作している。三輪眞弘さんが2000年に書いた『新しい時代』というオペラがあり、それを再演しようとしているのだ。京都の22世紀クラブの委嘱で書かれたので、京都にゆかりのあるオペラだ。三輪眞弘さんといえば、数年前に春秋座で上演された『光のない。』で、不思議な音楽を担当されていたので、この劇場にも関わりが深い。

幸運にも筆者はその『新しい時代』の17年前の初演を見た。そしてオペラにこんな可能性があるのかと深い衝撃を受けた。それが忘れられず（というよりも、時が経つにつれて、今こそもう一度このオペラが再演されるべきなのではないか、という思いが強まり）、ついに三輪さんはもちろんのこと、様々な人の協力を得て、今年の年末に大阪と名古屋で、それが実現しようとしている。

三輪さんは高校を出てすぐにドイツに渡り、それからドイツの音大で作曲を学び、卒業後もドイツにとどまっていた音楽活動を続けていた。18年ぶり、1990年代後半に日本に帰って仕事す

るようになって、三輪さんはどのように活動していいのかわからなくなった、という。日本という国で日々やりとりされている言葉にどうしても馴染めなかったのだという。耳ざわりの良い、差し障りのない「正義」ばかりが繰り返され、本当に必要な叫びは一度も発せられずに圧殺される。そのような事態を「徹底的な饒舌と沈黙」と三輪さんは表現した。ちょうど、地下鉄サリン事件や阪神淡路大震災（1995年）、そして神戸の少年連続殺傷事件（1997年）の時代だ。

長い沈黙の後、ようやく三輪さんが書いたオペラでは、14歳の少年が語り、ネットの中の情報から感じ取ったある旋律を歌う。そして中央に据えられた幻灯のような装置を囲んで4人の巫女が単純な旋律を紡ぐ。4人の旋律がうまく重なるとそれは一瞬「声」になる。4つの旋律がちょうど声のフォルマントを構成し、祈りの言葉になって浮かび上がるのだ。それは、この時代を生きる我々全てが発するべき必要最小限の言葉なのではないか。——現代の若者にこのよう

な作品がどこまで通じるのか、私自身も固唾を飲んで見守っているところだ。



伊東信宏

大阪大学大学院教授（音楽学）

1960年京都市生まれ。大阪大学文学部卒業。同大学院、ハンガリー留学などを経て、現職。著書に『パルトーク』（中公新書、1997年、吉田秀和賞受賞）、『中東欧音楽の回路（岩波書店、2009年、サントリー学芸賞）など。朝日新聞、NHK-FM、『レコード芸術』などで定期的に批評、解説を担当。東欧演歌研究会を主宰。

※P.8 歌劇「魔笛」全2幕も併せてご覧下さい。

BOOK

好評の公開連続講座「日本芸能史」、待望の書籍化！

公開連続講座「日本芸能史」企画・コーディネーターの田口章子教授による書籍。同講座は「芸能と芸道」が根幹を成す日本の伝統文化の独自性と普遍性を、第一線で活躍する専門家が実演をまじえて解説する講座です。上巻のテーマは「アジアの視点」。海の彼方から列島にうち寄せた芸能の波は日本の芸能にどのような影響を与えたのかを考察。下巻は「生命の更新」とし、人は芸能に参加することで、神と交流するだけでなく死と生を体験し生まれ変わることを論じます。芸能や芸道を通して日本人の伝統的価値観を探ります。

『日本を知る“芸能史”』
〈上巻〉アジアの視点・〈下巻〉生命の更新



A5判並製 各3,024円（税込）雄山閣（各書店にてお求めください。）

9月9日(土)、10日(日) 14:00

春秋座 特設客席

20世紀を代表する劇作家・小説家のひとり、
サミュエル・ベケットの代表作を、
ベケット自身の演出ノートに基づき上演

東京・シアターX(カイ) + 演劇集団マウス・オン・ファイア共同製作

サミュエル・ベケット作 『ゴドーを待ちながら』

英語上演日本語字幕付



【出演者】(左から)

エストラゴン：ドンチャ・クロウリー、グラジーミル：デイビッド・オマーラ、ポッツォ：マイケル・ジャッド、ラッキー：シャダーン・フェルフェリ、少年：下宮真周

【整理番号付自由席・発売中】

[前売券] ※当日券は前売料金+500円

一般 3000円 友の会 2400円 学生&ユース 2000円

※各回開演10分前より整理番号順にご入場いただきます。

※託児サービスあり(有料・要事前予約)

T-C OTS e+ ぴあ 生協

2017年度共同研究プロジェクト

展示+レクチャー

「サミュエル・ベケットを〈読む〉」

『ゴドーを待ちながら』の上演を機に、幅広い視点からベケットをとらえるために、小さな展覧会とレクチャーを開催します。戯曲、小説、評論、評伝、影響を受けたアーティストの作品集などの書籍、映像や、専門家による「ベケット受容の変遷」についてのレクチャーから、今日におけるベケットの意義について、ともに考えていただければ幸いです。

展 示…9月8日(金)～11日(月) 11:00～20:00

※最終日は17時まで

※9月9日、10日は『ゴドーを待ちながら』公演日のため、13～14時半は展示をご覧いただけません。ただし、公演チケットをお持ちのお客様は開場後からご覧いただけます。

会場：京都芸術劇場 春秋座ロビー

入場料：無料・予約不要

会場構成：多木陽介+小崎哲哉+原田祐馬(UMA/design farm)

レクチャー…9月8日(金) 17:00 (10分前開場)

登壇者：多木陽介+小崎哲哉

会場：京都造形芸術大学 人間館 NA412 教室(人間館4階)

入場料：無料・要事前申込(定員100名程度)

申込：以下のいずれかよりお申込みください。(9月7日(木)17時まで)

●公式ウェブサイト内申込みフォーム www.k-pac.org/kyoten/

●京都造形芸術大学共同利用・共同研究拠点事務局

tel.075-791-9144 (平日10-17時)

9月23日(土)、24日(日) 14:00

春秋座

「夜の女王のアリア」「パパパの二重唱」など
一度は生で聴きたい、あの名曲を

春秋座オペラ第8弾 W.A. モーツァルト作曲

歌劇『魔笛』全2幕(日本語訳詞上演)

モーツァルト最後のオペラ作品が満を持して春秋座オペラに登場。今回は実力派の歌手たちによる珠玉のオペラ『魔笛』を上演。夜の女王による2つの超絶技巧のアリア、パパゲーノの「おいらは鳥刺し」やパパゲーナとの「パパパの二重唱」など、一度は生で聴いておきたい曲が目白押しです。演出も歌舞伎劇場の機構を存分に生かし、分かりやすい日本語訳詞で、子どもから大人までオペラ鑑賞が初めてでも十二分に楽しめます。



夜の女王(23日) 川越塔子



夜の女王(24日) 原田幸子

【全席指定・発売中】

S席 一般 10000円 友の会 9000円

A席 一般 8500円 友の会 7500円

学生&ユース席 3000円(座席範囲指定あり)

※託児サービスあり(有料・要事前予約)

T-C OTS e+ ぴあ 生協 新聞

10月27日(金) 19:30
28日(土) 15:00*

春秋座

〈ミュージック・シアター〉として世界的に知られる
ゲッベルスによる音楽劇

KYOTO EXPERIMENT 京都国際舞台芸術祭 2017
ハイナー・ゲッベルス×アンサンブル・モデルン

『Black on White』

〔日本初演〕

ドイツを拠点に
80年代から活
躍する現代音
楽家ハイナー・
ゲッベルスが、
ついに KYOTO
EXPERIMENT
に登場。各地



『Black on White』 ©Christian Schafferer

の国際フェスティバルでも上演されてきた音楽劇『Black on White』は、世界トップレベルの室内合奏団「アンサンブル・モデルン」のために書き下ろした作品。楽団員がパフォーマーともなり現代音楽、ジャズ、黒人音楽といった多彩な楽曲を演奏する中、大太鼓にテニスボール、フルートにあわせたやかんの音、朗読音源など、楽器演奏だけにとどまらないあれこれの音が入り混じっていきます。ゲッベルスといえば、大規模なオーケストレーションの大作、コンサート作品などの他、アバンギャルドなロックバンド「カシーバー」での活動を思い起こす人もいるかもしれませんが、彼が取り組んできた“音楽劇”は、あくまでも劇場作品。さまざまな様式の音楽、歌、声、音源をポリフォニックにも響かせながら、動きと演出を加えて空間が構築されています。

劇中ではハイナー・ミュラーがエドガー・アラン・ポーの小説「影」を読み上げる声が幾度となく挿入されます。東ドイツの重要な劇作家、ミュラーの演劇作品で音楽を担当してきたゲッベルスからの、ユーモアあるレクイエムのようにも聞こえてきます。

*10月28日(土)の回、ポスト・パフォーマンス・トークを行います。

【全席指定・一般発売 8月8日(火)】

※当日券は前売料金+500円(高校生以下は前売料金と同額)
一般 5000円 友の会 4500円 学生&ユース 3000円
高校生以下 1000円 ペア 9500円

※28日(土)の回のみ託児サービスあり(有料・要事前予約)

※他の公式プログラムとあわせてみるとお得なセット券もご用意しています。 取り扱い…KYOTOEXPERIMENT チケットセンター

T-C OTS e+ ぴあ

11月17日(金) 18:00 18日(土) 16:00
19日(日) 13:00

春秋座

今年もやります。円熟の至芸を春秋座で!

立川志の輔 独演会

今年で9年目を数える完売必至の名物公演。唯一無二、魅力満載の極上ネタをたっぷり味わっていただきます。



【全席指定・一般発売 8月30日(水)、友の会先行発売 8月29日(火)】
一般 4000円 友の会 3200円

学生&ユース席 2000円(座席範囲指定あり)

※友の会は8月7日(月)までのご入会で、先行発売でのご購入が可能です。
※19日(日)の回のみ託児サービスあり(有料・要事前予約)

T-C OTS e+ ぴあ 生協 新聞

9 2日(土) 13:00/17:00

春秋座

コロケ & 京フィル アメージングコンサート in 春秋座

特集▶P.T-2

【全席指定・発売中】

一般 6000 円 友の会 5000 円

学生&ユース席 3500 円(座席範囲指定)

※未就学児童の入場はご遠慮ください。

T-C OTS e+ ぴあ 生協 新聞 KBS

※京都フィルハーモニー室内合奏団でも取り扱いあり。tel.075-212-8275

10 20日(金) 19:00、21日(土) 16:00 春秋座 特設客席

KYOTO EXPERIMENT 京都国際舞台芸術祭 2017 公式プログラム
スン・シャオシン

『Here Is the Message You Asked For... Don't Tell Anyone Else ;-)]』

[日本初演]

中国・北京で活躍するスン・シャオシンは、ミレニアル世代から多くの支持を集める気鋭の劇作家、演出家。作品のタイトル「Here Is the Message…」とは、かつて世界的に拡散したコンピューターウイルス「Melissa」から届くウイルスメールの件名から。徐々に現実を侵食していく、現代社会を表象した話題の舞台です。

【自由席・一般発売 8月8日(火)】

※当日券は前売料金+500円(高校生以下は前売料金と同額)

一般 2500 円 友の会 2200 円 学生&ユース 2000 円

高校生以下 1000 円

ペア 4500 円 ※(前売のみ)

※21日(土)の回のみに託児サービスあり(有料・要事前予約)

取り扱い…KYOTOEXPERIMENT チケットセンター

T-C OTS e+ ぴあ

10 11日(水) ~ 15日(日)

春秋座

2017 年度共同研究プロジェクト

「イヴォンヌ・レイナーを巡るパフォーマティヴ・エキシビジョン」

振付家・ダンサーのイヴォンヌ・レイナーとポストモダンダンスを巡るパフォーマティヴ・エキシビジョンを、春秋座で、展示上演します。

研究代表者：中島那奈子

(ドラマツルク/愛知大学・尚美学園大学・ベルリン自由大学)

※詳細については随時、共同利用 Web ページにて更新します。

www.k-pac.org/kyoten/

【料 金】無 料

11 25日(土)、26日(日) 15:00

春秋座 特設客席

YUKIO SUZUKI Projects

特集▶P.02

『堆積 -Accumulations-』

テキスト引用：スベトラーナ・アレクシエービッチ著

『チェルノブイリの祈り-未来の物語』(松本妙子訳/岩波現代文庫)

【整理番号付自由席・一般発売 9月6日(水)、友の会先行発売 9月5日(火)】

【前売券】※当日券は前売料金+500円

一般 3000 円 友の会 2500 円 学生&ユース 2000 円

※各回開演 10 分前より整理番号順にご入場いただきます。

※託児サービスあり(有料・要事前予約)

T-C OTS e+ ぴあ 生協

12 9日(土)、10日(日) 11:00/15:30 (4回公演)

春秋座

京都芸術劇場 春秋座 芸術監督プログラム

市川猿之助・藤間勘十郎 春秋座花形舞踊公演

番組/清元・長唄「喜撰」、長唄「黒主」、清元「流星」、
長唄「黒塚」

【全席指定・一般発売 10月11日(水)、友の会先行発売 10月10日(火)】

一般 9000 円 友の会 8000 円

学生&ユース席 4000 円(座席範囲指定)

T-C OTS、他

チケットお問合せ先

京都芸術劇場チケットセンター

tel.075-791-8240

営業：平日 10:00-17:00・公演開催日

※お盆期間 8月11日(金)~16日(水)は営業をお休みさせていただきます。

京都造形芸術大学 舞台芸術研究センター

京都芸術劇場 春秋座・studio21

606-8271 京都市左京区北白川瓜生山 2-116

tel.075-791-9207 fax.075-791-9438

E-mail. k-pac@kuad.kyoto-art.ac.jp

http://www.k-pac.org

京都芸術劇場

検索

京都芸術劇場友の会 会員募集中!

詳しくは http://k-pac.org/?page_id=33

T-C 京都芸術劇場チケットセンター OTS 劇場オンラインチケットストア

e+ イープラスー http://eplus.jp

ぴあ チケットぴあー http://t.pia.jp tel.0570-02-9999

生協 京都、滋賀各大学生協プレイガイド

新聞 京都新聞文化センター(京都新聞社 1F)

tel.075-256-0007(窓口のみ 10-17 時 ※土・日・祝除く)

KBS KBS 京都事業部

tel.075-431-8300(電話のみ 10-17 時 ※土・日・祝除く)

*記載のないものについての開場は開演 30 分前

*特に表記のない場合、前売と当日は同じ料金

*ユースは 25 歳以下対象(一部公演を除く)

*学生・ユースは要身分証明書提示

カーテンコール

暑い日々が続いておりますが皆様いかがお過ごしでしょうか。
9月からの京都芸術劇場はコロケさんから始まりオペラ、
ダンスと目白押し。お誘いあわせの上ご来場ください。[S]

【募集】演じるシニア ワークショップ

舞台芸術研究センターでは2013年度に「演じるシニア」企画として60歳以上の一般の方を募集して作品創作を行い上演しました(『レジェンド・オブ・LIVE』構成・演出:杉原邦生)。今回、その第二弾を開催。出演者として60歳以上の一般の方を公募いたします。舞台経験は問いません。「春秋座の舞台に立つ」を目標に複数名の若手演出家・振付家による演出体験ワークショップを受け、新進気鋭の演出家・杉原邦生氏と共に2018年夏に本格的な舞台作品を創造します。また今回、出演者と共に公演を支えるスタッフワークを担うプロジェクトメンバー(中学生以上)も募集中です。京都造形芸術大学の学生も加わった、幅広い年齢層で作品創作を行います。※詳細は劇場HPをご覧ください。



撮影:堀川高志

【公演本番】2018年8月25日(土)/26日(日)〈2回公演〉

【会場】春秋座

【構成・演出・美術】杉原邦生

【演出体験ワークショップ】

講師:柴幸男、糸井幸之介、ごまのはえ、白神ももこ

申込締切 2017年9月25日(月) 17:00

ワークショップ会場:春秋座、京都造形芸術大学内ほか

2017年度 日本芸能史 「神仏と芸能・芸道」

毎回、第一線で活躍している専門家を講師にお迎えし、日本で受け継がれてきた多様な伝統芸能を、実演を交えながら解説していただきます。学習意欲のある方なら、どなたでも受講いただけます。

後期 神仏と芸能・芸道

能 天野文雄[能楽研究] 理論
総論 諏訪春雄[比較芸能史研究] 理論
華道 池坊専好[華道家] 実演
嵯峨大念仏狂言 嵯峨大念仏狂言保存会 実演
風流(京都の民俗芸能) 京都大原里づくり協会 実演
声明 天台宗総本山比叡山延暦寺法儀音律研究部
/木戸敏郎 実演

京舞 井上八千代[舞踊家] 実演
能 藤田六郎兵衛[能管演奏者] 実演
説経浄瑠璃 若松若太夫[説経師太夫] 実演
茶道 千宗員[茶道家] 理論
六斎念仏 京都市中堂寺六斎会 実演
日本舞踊 坂東温子[舞踊家] 実演
神仏なき世界の演劇 諏訪春雄[比較芸能史研究] 理論
神楽(石見神楽) 温泉津舞子連中/小林泰三 実演
スケジュールは劇場HPをご覧ください。

【申し込み方法】

後期(全14回) 9月25日(月)~2018年1月22日(月)
毎回:月曜日 16:30~17:50 受講料各期:1万5千円
会場:春秋座 ※10月2日の回のみ学内他会場で行います。
申込方法:まずは京都藝術学舎へお電話、または窓口にて
受講予約をお願いします。

【お問合せ・資料請求先】

京都造形芸術大学 京都藝術学舎
〒606-8271 京都市左京区北白川瓜生山2-116 人間館中2階
tel.075-791-9124 fax.075-791-9021
受付:月~土曜日/午前10時~午後4時
休日:日曜日・祝日・入学試験実施日・年末・年始

アクセス

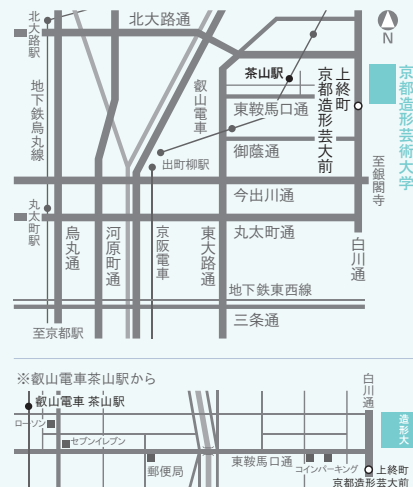
- JR・近鉄「京都」駅、京阪「三条」駅、阪急「河原町」駅から
京都市バス5系統「岩倉」行きに乗り、「上終町京都造形芸大前」下車
(「京都」駅から約50分、「三条」・「河原町」駅から約30分)
- 京都市営地下鉄「丸太町」・「北大路」駅(北大路バスターミナル)から
京都市バス204系統循環「高野・銀閣寺」行きに乗り、
「上終町京都造形芸大前」下車(約15分)
- 京阪電車「出町柳」駅から叡山電車に乗り換え、「茶山」駅下車、徒歩約10分
- タクシーご利用の場合、「京都」駅から約30分。地下鉄「今出川」駅から約15分
(「京都」~「今出川」は地下鉄で約10分)

※所要時間はあくまで参考としての標準時間です。天候や交通事情により変わりますのでご注意ください。
※駐車場はございませんので、お車・バイクでのご来場はご注意ください。

発行日-2017年8月1日

発行/編集-京都造形芸術大学 舞台芸術研究センター
デザイン-吉羽 一之 (Simple Hope Design Room)

京都芸術劇場ニュースレター vol.38





京都芸術劇場 ニュースレター

shunjuza
studio21
Newsletter

特集

YUKIO SUZUKI Projects

『堆積—Accumulations—』

コロッケ&京フィル
アメリカングコンサートin春秋座

T・2P
T・5P

2P
5P

vol
.38
2017.8



コロッケ&京フィル イメージングコンサート in 春秋座

日本を代表するものまねタレント、コロッケさん。その声帯、形態模写は、独特のオリジナリティーを加え、今やアートの域にまで達しました。

この度、京都フィルハーモニー室内合奏団のクラシック管弦楽と共演することで、さらなる芸術性を追求。何が起こるかわからない、まさに実験と冒険のコラボを試みます。

今回のコンサートを企画した春秋座チーフプロデューサー・舘野佳嗣が、コンサートへの意気込みを伺いました。

2017年9月2日(土) 13:00/17:00

会 場：春秋座
出 演：コロッケ
指 揮：井村誠貴
演 奏：京都フィルハーモニー室内合奏団

●公演情報の詳細はスケジュール一覧〈P.10〉をご覧ください。

コロッケ 今回、京都フィルハーモニーさんと一緒に、色々な新しい試みができるのが本当に嬉しいんです。

—— 春秋座は歌舞伎劇場ですし、大学の劇場ということで、普段のコロッケさんのコンサートとは違う事をしたいなと思っていて、この企画をお願いしたんです。

コロッケ 実は、ずっと、こういうことやりたかったんですよ！

—— それは嬉しいですね。ありがとうございます。

コロッケ 今回、コンサートの内容を考えるにあたり、改めてお客様がコロッケに求めているのは何かを考えてみました。で、やはり求められているのは、奇想天外で楽しいコンサートじゃないかなと思ったんですね。例えば友達や家族と「何か観に行こうか」となった時にコロッケのコンサートを選んでいただける。あるいは会話の無くなった夫婦でも「コロッケだったら行ってみるか」と思っていただけのようなものにしたと思うんですよ。

僕にとって、エンターテインメントというのは、観た後に会話が増えるのももちろんですが、一ヵ月、一年、一〇年、二〇年経っても、「コロッケ、観に行きたよね」と、思い出す度に笑顔になる、人生の一ページにコロッケの舞台が入っている、それがコロッケの一番のコンセプトですね。

それで今回は、お客様に「コロッケのエンターテインメントって、こういうやり方もあるんだ！」という可能性を感じていただけないと、やらせていただく意味がないと思っています。

だけどバラエティとオーケストラは正直、難しいですよ(笑)。でも、京フィルさんと化学反応を起こし合って、良い舞台にしたいですね。

あの三大テノールの一人が春秋座に出現する？

コロッケ それで今、考えているのは、パヴァロッティ(ルチアーノ・パヴァロッティ〈1935—2007〉)イタリアのオペラ歌手)をやりたいと思っているんですよ(笑)。いや、大体、お客様にとって「パヴァロッティをやるって何なんだよ！」って話ですよ。これを、ふざけてやるのか、本格的にやるのかって思いますよね。でも、意外と歌を聞いた時に、「えっ、コロッケってそういう声が出るんだ」と思っていたら、お客様とも化学反応を起こせると思うんです。良い意味で期待を裏切るというか。

実は、去年のクリスマスディナーショーのオープニングの時、パヴァロッティで『サイレントナイト』をやったんですよ。サンタクロースの帽子をかぶって、マントを着て、厳かに出て行く。それで軽く会釈して、「サ〜」って、『サイレントナイト』をワンコーラス歌う。そして東北井で「メリ〜クリスマスマス！パヴァロッティです」って(笑)。これ、思ったよりウケたんです。「あれ？パヴァロッティ東北の人だっけ」って(笑)。その代わり、ちゃんと朗々と歌わないとダメですけれどね。

—— どなたかに発声を習うのですか？

コロッケ 以前、オペラ歌手の中島啓江さんに見てもらったんです。その時、中島さんから「ぜんぜんけるよ！テノールいけるよ」って言っていたいて。

—— この間、聴かせていただきましたが、ビリビリするぐらい、ものすごい迫力でしたよ。

コロッケ ありがとうございます。うーん、パヴァロッティの扮装をしてオープニングにするのも面白いなあ。

—— オープニングはつかみですからね。

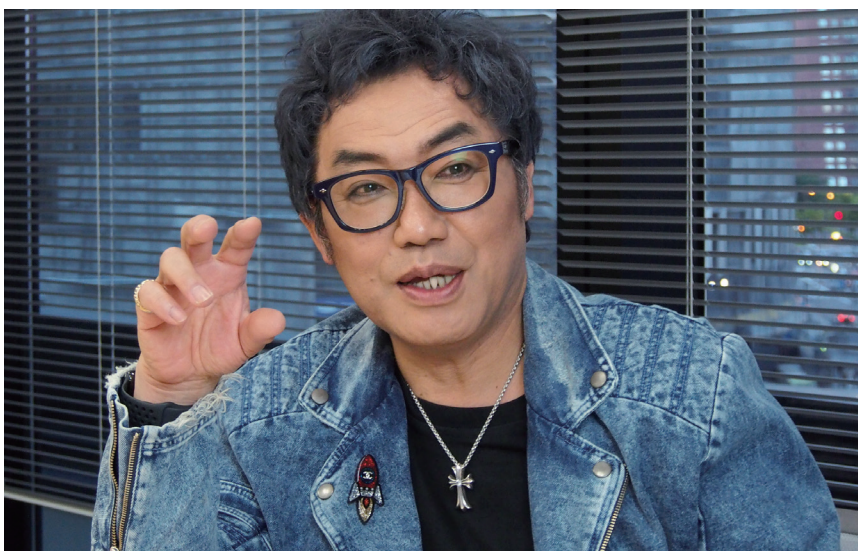
コロッケ でも、オーケストラがお好きな人にしてみたら反感を買っちゃいますかね。どうすればいいか。ロボットにするか、それもいいなあ。新しいものが生まれるかもしれない。あ、僕の中ではロボットものも進化しているんですよ。人間なんだけどアンドロイドで出来ていて、人間に見えない動きをします。そういうものでやれたら面白いかなあ。

コロッケ あとね、オーケストラの方と共演されている歌手の方、谷村新司さんや玉置浩二さんのコンサートの一部を切り取ってやるとかね。完全なコピーにするか、コロッケらしいものまねでやるか。ここは、ひ

ねりが必要ですけどね。

—— いろんな方のコンサートを切り取ってやるのも面白そうですね。

コロッケ 最後は玉置さんのコンサートの終わり方と一緒にして、『夏の終わりのハーモニー』をアカペラで歌って、スーッと消えていくとか。玉置さんのオケ



とのコンサートは、本当にステキなんですよ！

—— 京フィルさんは玉置さんとも一緒にやっていますからね。

コロッケ 僕個人としては『メロディ』が好きだけどもお客さんとしては『ワインレッドの心』の方がピンときますかね。あと、玉置さんとオケのコンサートで一番かっこいいのは『行かないで』ですよ。

それから谷村さんといえば『チャンピオン』と『昴』ですか？ さだまさしさんだったら…『秋桜』とかがいいのか。壮大な感じの曲なら『防人の詩』と。「教えてください〜」ですね。

あと長渕さんだと『巡恋歌』がいいのかな。「すーきです、すーきです♪」でしょ、あと『CLOSE YOUR EYES』。これ、映画の『男たちの大和YAMATO』の主題歌なんですね。それから『とんぼ』もかっこいいのかなあ。一人一曲は壮大な曲にしたいですね。

この人になりたい、なれたらいいな

コロッケ 今回のコンサートは「コロッケ」という、ものまね芸人ではなく、パフォーマーとして臨みたいと思っています。三〇パーセントがオリジナル、後は個性ですね。この部分は芸術的要素になります。

—— 芸術は、何でも模写から始まるじゃないですか。京都造形芸術大学の学生もそうですね。日本画も洋画

も模写からスタートします。ですから学生たちにも、ぜひ観てもらいたいですよ。

コロッケ そうですね。僕は、「模写」ということで気を付けているのは、人気があるから、ものまねをするのではなく「その人になってみたい！」というのが基本にあるんです。

赤ちゃんがお母さんの真似をしたがるのと一緒。好きだから「この人になりたい、なれたらいいな」と思うのが基本にありますね。それは芸術家もきっと同じじゃないですかね。そういうところから入っているんじゃないかなあ。

—— 完全に模写をした後に自分のオリジナルが出るようになる。

コロッケ そうですね。実は「ものまね」というのは安土桃山時代からあるんですよ。狂言の動物の動きや鳴き声なんか、そうですね。田舎歌舞伎だって、旅行者の真似を土地の人がしたことから派生したんだと思うんですよ。だから僕は現代の「ものまね」ですよ。それがひどい方向にいつているという（笑）。

でもね、今年は新しいことにチャレンジする機会が多いんです。そういう年なのかなと。誰もやっていない事しないよね！ 僕、誰かがやっていることは嫌なんです。

今回のコンサートで、何か新しいエンターテインメントが生まれそうな予感がして、楽しみです。

（二〇一七年六月取材）

打ち合わせを重ね内容が見えてきた

まず1部は、あのイタリアの有名なオペラ歌手？が登場。続いて谷村新司さんや松山千春さんらが、オーケストラを従えて行ったコンサートをコロッケ&京フィルスタイルにてゴージャスに再現します。

2部は、童謡や昭和の懐メロを様々な歌手やタレントで模写しながら表現。そこで、コロッケが指揮者や奏者と絡んで、コミカルな場面もお見せします。もちろん『五木ロバット』オーケストラバージョンもやります。どんな化学反応を起こすのかお楽しみに。

そして、ファンを裏切らない定番の「ものまねメドレー」で最後を締めくくります。どれもこれも演奏は荘厳で流麗な京フィルの演奏で、ある時はコロッケのあらゆる変化球を巧みに受け止めるテクニックも見もの聴きものです。

これぞ芸術性の高いエンターテインメントの決定版。ぜひこの現場をお見逃しなく春秋座へお越しください。



京都フィルハーモニー室内合奏団

そもそもの企画の発端

今まで京フィルさんとのコラボ企画として、元宝塚歌劇トップスターさんたちとのコンサートを行ってきましたが、今回は、一風変わったコラボをしたいと考えました。そこで思いついたのが、以前いくつかお仕事を一緒にしたコロッケさんです。「コロッケさんとオーケストラが一緒になったらどうなるんだろう？」とイメージしてみました。そこで京フィルの小林理事長に相談したところ「ぜひ、やってみたい！」と即答。もちろん、コロッケさんの代表作『五木ロバット』についても、「全て管弦楽で金属音や電子音などを表現したら面白いんじゃない？」とご提案いただきました。一方、コロッケさんから、「願っ

てもないこと。ちょうど、いつもとは違うショーをやってみたかったところ」と言ってお下さり、みんなの想いが一致した瞬間でした。コロッケさんというと「ものまねタレント」というイメージですが、彼の芸は芸術だと思っています。彼の言葉に「100パーセント真似るのなら本物を見ればよい。模写は30パーセントであとの70パーセントをデフォルメして独自性を創造する」というのがありますが、もはや、アーティストの域に達しています。だからこそ、この芸術大学の中にある劇場で行う意義があるなと思っています。

春秋座チーフプロデューサー・館野佳嗣

